

2024年1月31日(水)

令和5年度在宅医療・介護連携ワーキンググループ

京都市北区・上京区在宅医療・介護連携センター

一地域の多職種とともに紡ぐ在宅医療と介護の連携一

京都市北区・上京区在宅医療・介護連携支援センター
(京都北・上京区、京都市西陣、上京東部医師会)
訪問看護認定看護師・主任介護支援専門員
コーディネーター 村上 成美 |

京都市北区・上京区在宅医療・介護連携支援センターの体制



1日の体制: コーディネーター1名+事務員1名のシフト制

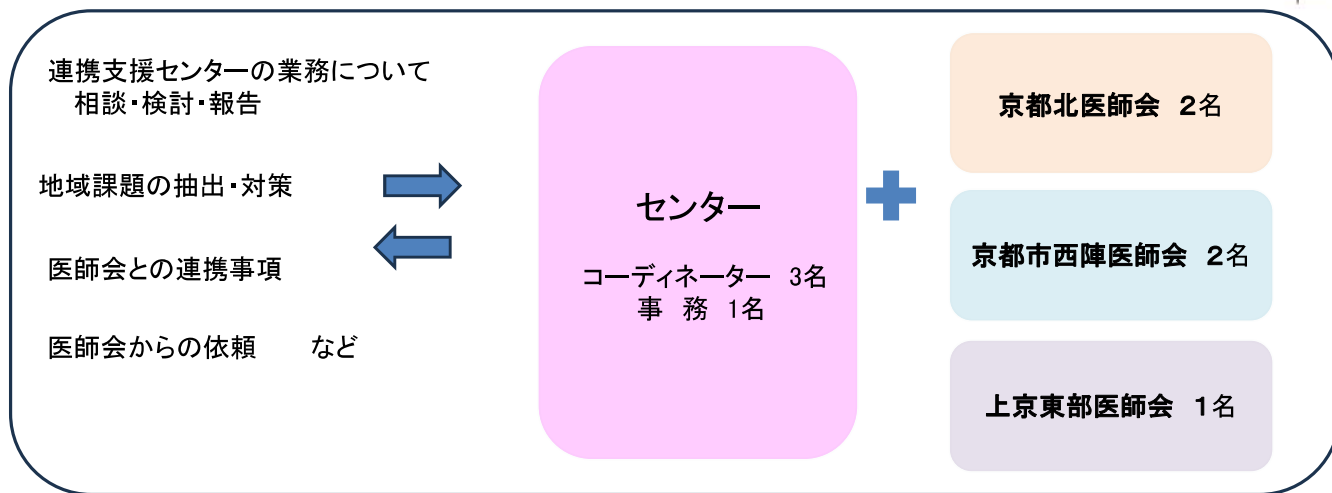
スタッフ: コーディネーター 3名
☺ 訪問看護認定看護師・主任介護支援専門員
☺ 看護師・社会福祉士
☺ 主任介護支援専門員・社会福祉主事任用資格

事務 3名
☺ 看護師
☺ 介護福祉士
☺ 公認心理士



当センター世話人会 + 日々の連携

月1回開催



当センターの特徴



スタッフが定着している : 地域の多職種・多機関の皆さんと顔の見える関係性
多職種のスタッフが所属

医師会の先生方と常に連携がとれる体制・関係性
: 急な対応や医学的判断必要時などSOSが出しやすく 対応していただける

地域包括支援センターはじめ、地域の諸機関・多職種と良好な関係性
: 様々な会議の出席依頼 + 研修講師の依頼 + 研修の開催相談 + 気軽に相談・同行
顔の向こうが見える関係性

コーディネーターがセンター長を兼務

夜間・休日にも連絡の取れる体制

※他の地域の大切な情報、客観的視点など、京都市さん、府医師会さん、他の連携支援センターの仲間からアドバイスをいただきながら・・・

着任当初

開業医の先生に連絡
をとるのは敷居が
高く気をつかう

カンファレンスに参加し
て下さる先生が少ない

利用者の主治医の先生に
会ったことがない

先生方とのテーブルを囲み一
緒に研修や話しをするのが
永遠の課題だった

センターへの期待
をヒシヒシ

医師会が委託
された

地域課題の認識

医師と多職種
医療と介護事業所・スタッフ
を紡ぐ役割

顔の見える関係作りから・・・



当センターが事業を行う中で大切にしていること

日々の業務や地域の声から地域課題を抽出し、
多職種・多機関と一緒に緩和・解決に向けての実践を行い

相談は、一般論ではなく一例一例の内容に応じ個別性を大切に対応する

緊急時、感染症、看取りを含め、医療につながらない方のSOSにタイムリーに
医師会の先生方と一緒に対応する

当センターの活動 : 多職種・多機関と一緒に。地域課題の抽出から研修



2023年10月

2日	【研】臨床での倫理—ACPと物語をつむ— 講師 金城隆展
3日	研修:認知症ケアの倫理
4日	CF:川越HPカンファレンス
5日	【研】災害研修2回目 講師:宮本雄気先生
11日	会議:コーディネート会議10-
12日	会議:北区地域包括支援センター長会議 会議:北区地域支え合い活動 連絡会議 会議:仁和包括地域ケア会議 アスニー 会議:三地区医師会 世話人会
13日	【講師】:保健看護大学 実習
15日	つながるカフェ
17日	訪問:京都市北部障害者地域自立支援協議会 地域懇親会
18日	会議:上京区地域包括運営会議 会議:北区見守りサポーター研修
19日	説明会:MCS説明会
23日	【講】:十四軒町職員研修会
24日	【講】:障害者支援センター研修
26日	会議:包括保健師・看護師部会
27日	【研】リレートーク府立

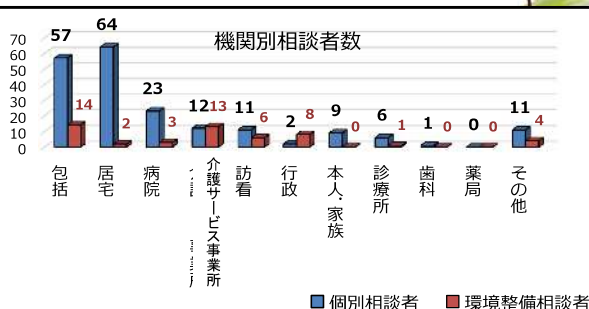
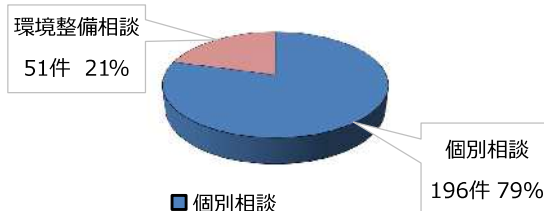
2023年9月

1日	会議:紫竹園域防災コアメンバー会議
7日	【研】終野災害研修1回目 講師:木全司令長・北消防署
8日	打合:社協研修会9:30-10:30
13日	訪問:出向くカフェ14-15 成逸 【研】紫竹園域 地域ケア会議 災害
14日	会議:北区地域包括支援センター長会議 北区地域包括支援センター運営会議 会議:三地区医師会 世話人会 20-
15日	会議:コーディネーター業務連絡会議
20日	会議:上京区地域包括運営会議
21日	【会議】第2回京都市北区・上京区在宅医療・介護連携支援センター運営会議14-北区西講堂 会議:認知症ネットネットワーク連絡会
23日	【市民】からだ丸ごと健康フェスタ!
27日	訪問:在宅での災害医療対策の件
29日	【研】病院リレートーク 堀川病院15:30-

当センターの活動 : 相談は一般論ではなく個別性を大切に対応



令和4年度相談件数 247件
(令和2年度 294件 令和3年度 336件)



個別相談項目

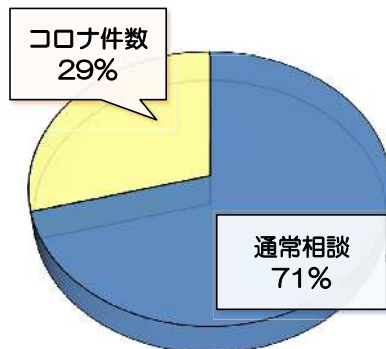


環境整備等相談項目

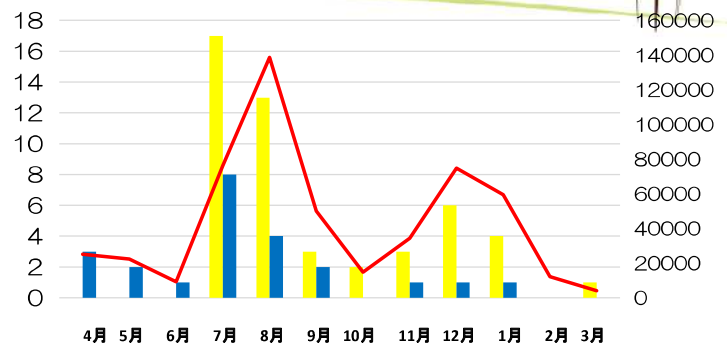


新型コロナ感染症と相談件数

相談割合 247件（令和4年）



コロナ関連相談数とコロナ感染症数



	令和2年度	令和3年度	令和4年度
個別相談数	237件	254件	196件
環境整備相談数	57件	82件	51件
合計	294件	336件	247件

■ 個別相談 ■ 環境整備相談 — 感染症数

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
コロナ関連相談数	108件	124件	72件
感染症数	9451件	139041件	521219件

課題の抽出 : 感染症に対する不安と混乱

地域包括支援センターからの相談

圏域のケアマネ連絡会で以下のことが話された・・・

- 新型コロナ感染が出た病院に入院していた独居の患者さんが、退院。
ヘルパーを利用したいが、コロナ感染が不安なので、訪問できないと断られた。
- 緊急事態宣言の最中、東京から父親の介護のため息子さんが京都へ。
息子さんはPCR検査未実施、感染が不安なので14日間はヘルパー訪問は難しいと言われた。

介護施設からの相談

- 施設内でクラスターが発生したが、1医療機関を除き、医師が来てくれない。
- 自分たちがやっている感染対策がこれでよいのかもわからない。
- 同法人のスタッフの応援が望めない。



介護スタッフの不安は大きい。 医療職も！
このままでは、在宅や施設での生活が守れない。 利用者もスタッフも！

○へり
○このま

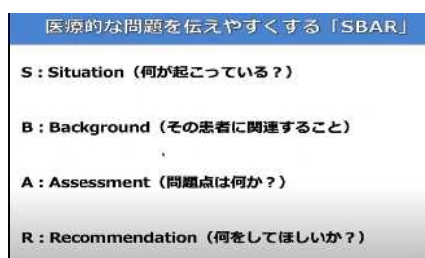
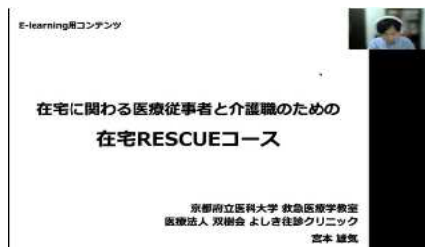
波と波の合間地域の催し物に出向き
感染対策の普及

最近の地域課題抽出として



介護支援専門員、介護職のスタッフから

日々の訪問や今後災害発生時など緊急・急変時遭遇時の判断・対応への不安と医師との連携



顔の見える関係づくり



在宅医療・介護連携支援センターのコーディネーターとして、

相談・研修・会議などを通じ、地域課題や個別課題に応じた支援を
医療・介護の多機関、多職種、同職種同志をつなぎながら、ひとつひとつを課題を丁寧に紡ぐことによ
患者さん(利用さん)やご家族の、在宅での療養や生活、希望が叶えられるのではないかな。

また、私達コーディネーターやケアする側もこの物語をともにすることにより、
それぞれの役割の意味づけ(やりがい)を感じることができるのではないかな。

→在宅医療・介護の醍醐味や継続・仲間作りにつながる。



地域資源を巻き込んだ 連携支援センターの活動事例



医療法人社団 都会
MIYAKOKAI

京都北医師会 (在宅医療・介護・認知症 担当理事)

北区上京区 在宅医療・介護連携支援センター (世話人・運営委員)

医療法人 社団 都会 渡辺西賀茂診療所 所長

小原 章央

本日正式紹介する内容

- 1, 包括→連携支援センター→在宅医へ繋いだ
認知症せん妄患者のケース
- 2, 包括圏域地域ケア会議での取り組み
「災害対策」



医療法人社団 都会
MIYAKOKAI

1, 包括→連携支援センター→在宅医へ繋いだ 認知症せん妄患者のケース

80代後半 男性

●経過

- ・軽度認知症あり、奥様と2人暮らし、キーパーソンは長男さま(市内在住)
- ・紫竹包括担当(要支援)、かかりつけ医あり外来通院
- ・2023年9月某日、意識消失にてA病院へ救急搬送、MRI、CTでは
陳旧性脳梗塞のみで帰宅した
- ・翌日、発熱と意識レベル低下にてB病院へ救急搬送、肺炎の診断で入院
セフトリアキソン投与→経口抗菌薬に切り替え
- ・入院経過中にせん妄が出現、徘徊も目立ち、尿道カテーテルを自己抜去
しそうになった
→入院継続にリスクあり、肺炎改善したことから入院4日目に退院した

80代後半 男性

●経過(続き)

- ・退院後もせん妄が続き、退院日夜～翌朝は一睡もせず、玄関で全裸になり動けず
- ・09/28朝07:30から紫竹包括担当スタッフがずっと付き添った
↓
- ・せん妄が続き自宅での介護不可能であり、A病院、B病院は勿論、精神科病院も受け入れ不可、かかりつけ医も診療中で対応難しい
↓
- ・紫竹包括より連携支援センターへ相談あり
かかりつけ医に了承を得た上で
→連携支援センターから当院に連絡→往診へと繋がった



医療法人社団 都会
MIYAKOKAI

往診時の記録より

■2023/09/28(木)初回往診(小原、清水、村上)@自宅12:35-14:15
せん妄のため往診

S)「こんなに大勢でどこからおいでですか？」(本人)
訪問時はベッドに臥床し傾眠 耳が遠いが会話は成立する

O)徐脈(脈拍40-50/min・・・以前から)

SpO2 : >95% 発熱なし

心音呼吸音異常なし、crackleやwheeze聴取せず



医療法人社団 都会
MIYAKOKAI

往診時の記録より

■ 2023/09/28(木)初回往診(小原、清水、村上)@自宅12:35-14:15
(つづき)

A/P)せん妄の遷延

→身体疾患(感染症などによる炎症の遷延、電解質異常など →血液検査

※頭蓋内病変はA病院で否定されている)

を除外し、症状コントロールのため精神科受診へ繋げる必要がある
しかし、、、

それまでの間の生活を自宅で継続することは難しい

初期の対応

たまたま、

当法人が運営しているグループホームに空室あり

↓

グループ管理者へ相談した結果、このまま入所受け入れて頂く
こととなった

↓

その間にせん妄を来し得る身体性疾患を鑑別し、

せん妄コントロールのための薬物治療も開始

週明けに精神科病院受診へつなげ、

一度入院していただき症状安定化を図り、自宅へ戻って頂くことを方針と
した →長男さんもこれに同意された

グループホームへ



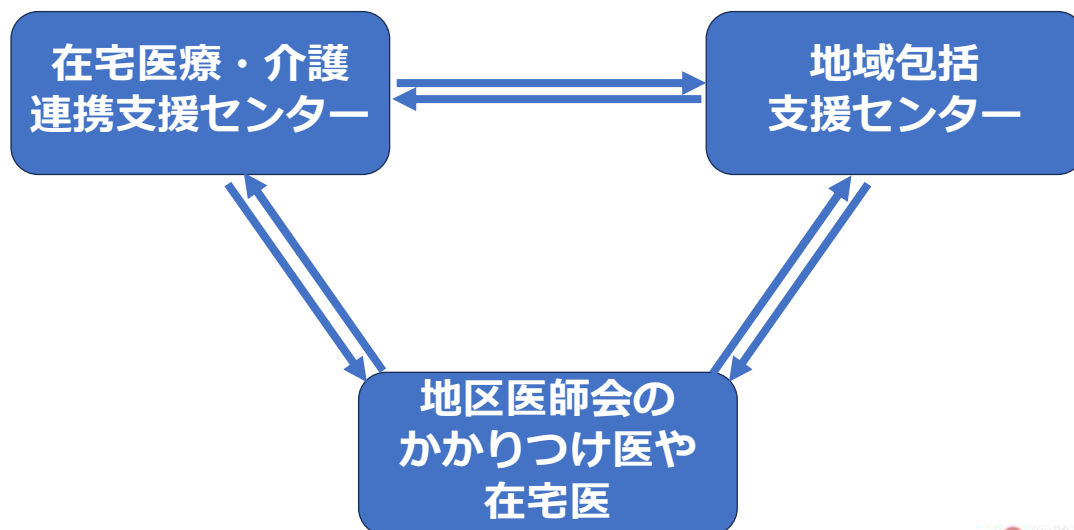
医療法人社団 都会
MIYAKOKAI

その後の経過

- グループホーム入所後、せん妄治療のため、
クエチアピン
ラメルテオン
を服薬開始したが、入所当日より睡眠十分にとることができ、
翌日からはラメルテオンのみ服用
↓
- ・せん妄はおさまり、10日間グループホームで過ごして頂いた
→ 自宅へ帰宅するにあたり、カンファレンスを開催
ご家族、包括担当らと経過を共有
自宅に帰った後の支援について相談、これまで利用しておられなかった
デイサービス利用を調整し、グループホームを退所
→ **かかりつけ医に繋ぎ(引継ぎ)介入終了**

医療法人社団 都会
MIYAKOKAI

連携支援センターと地域包括支援センターは 「地域包括ケアシステム」を現場で動かす「両輪」



2, 包括圏域地域ケア会議での取り組み 「災害対策」

今年度の包括圏域地域ケア会議テーマ

● 柊野包括圏域

災害に向けた**タイムライン**、**BCP**の作成

● 紫竹包括圏域

発災時最初の3日間を生き抜くための地域力

「備え」と**「通信」**と**「救護」**の3本柱

柊野包括圏域地域ケア会議

令和5年度 第1回柊野生活圏域地域ケア会議（次第）

日 時 令和5年9月7日（木） 13：30～15：30（予定）

場所 北消防署 1階講堂

出席者 出席者名簿参照

司 会 京都市柊野地域包括支援センター

《本日の内容》

13：30～ 開会挨拶 京都市柊野地域包括支援センター センター長 高橋 直子

13：35～ 講義 「大震災が起きた時、私たちの働く北区はどうなるの？」

～命を守るために知っておくこと～

講師：北消防署 副署長・消防司令長 木全 秀一 様

14：35～ グループワーク 「講義を受けての質問・命を守るために・・・」



紫竹包括圏域地域ケア会議



令和5年度第1回紫竹圏域地域ケア会議次第(資料①)

9月13日(水)18:15~20:15 @ZOOM

ID: 341 800 9215 パスコード: 333

テーマ「大震災発災後、最初の3日間を医療や介護を必要としている地域の方が乗り切るために
圏域の医療と介護が連携して備えと通信と救護の3本柱で進めて行こう!!」
～紫竹圏域防災プロジェクトの報告と、圏域全体の活動となるよう 参画いただくための場とする～
企画:紫竹圏域防災プロジェクトメンバー

◆プログラム

- ① 開会 総合司会 地域密着型総合ケアセンターさたおおじ 施設長 片山 大海 様 18:15~ 2分
- ② 講義「大震災が起きた時、北区はどうなるの?」 講師 北消防署 副署長 木全 秀一 様 18:17~ 25分
- ③ 紫竹圏域防災プロジェクト 趣旨説明
医療や介護を必要とする人が大震災発災後、3日間生き延びるため圏域医療介護連携による取り組み
を皆さんとともに 推進するために 紫竹包括 センター長 小林 舞見 18:45~ 5分
- ④ 活動の3本柱(備えチーム、通信チーム、救護チーム)の取り組みや方針報告 18:50~ 各8分×3
・備え(スマイル西舞茂 管理者 村田 壮 様)
・通信(京都市北区上京区在宅・医療・介護連携支援センター コーディネーター 麗果様・
紫竹包括 社会福祉士 浪江 恵)
・救護(京都市北区上京区在宅・医療・介護連携支援センター センター長 村上 成美 様)
- ⑤ 紫竹圏域防災プロジェクトの活動を圏域全体のものにするためのグループワーク 19:20~ 30分
☆グループワークの進め方
・「大震災発災後、最初の3日間を医療や介護を必要としている地域の方が乗り切るために」説明を受けた
3つの柱 備え、通信、救護について圏域で推進するための意見交換をする。
・3つの柱のうち、グループで1つor2つ選んで話し合う。
・グループワークの★印がついた司会者が進行する。書記と発表を決めて議論を始める。

3本の柱

紫竹圏域防災プロジェクトの各チーム

備えチーム

通信チーム

救護チーム

- ◆大災害発生後3日間生き延びる必要性に着目。
- ◆災害弱者である医療と介護を必要とする人を守るための取り組み。
- ◆地域の方とは来年度以降にプロジェクトで連携していく。
- ◆まずは、医療と介護の専門職の圏域の皆さんとともに。
- ◆取り組みはモデルとなって、良いところは他の地域にも活かす。

コアメンバーを毎月実施

令和5年度 第4回 紫竹圏域防災プロジェクト 防災コアメンバー会議議事録

令和5年11月17日(金)
14時

～15時半 紫竹包括3階会議室

司会：浪江 書記：小林

参加者：渡辺西賀診療所 小原医師・かぎもとクリニック 鍵本医師・なかつかさ在宅内科クリニック 高橋様
訪問看護ステーションにしがも 奥村様、貞方様・北上在宅介護連携支援センター 村上様、鷺巣様・きたおおじ
片山様・ひなたぼっこ 近藤様・春うらら 亀之園様・スマイル西賀茂 村田様・サービス協会北 村
田様・北区役所 地域力推進室 地域防災担当 内藤係長・みやこ薬局北山店 武山様・ワッツアップ 浅井
様

紫竹包括 中村、浪江、山本、小林

※下線部欠席者

敬称略

- ★備えチーム：近藤、亀之園、村田(スマイル)、村田(サ協会)、貞方、中村、山本、
- ★通信チーム：鷺巣、奥田、片山、浅井、浪江、小林
- ★救護チーム：小原医師 鍵本医師 村上 鷺巣 奥村 竹山 高橋 小林

紫竹圏域版・災害への「備え」を考えましょう！



「備蓄品」
お家に備えておくもの！



「非常用持ち出し袋」
避難の際に持ち出すもの！



◆これからの生活で災害が起きた時のことを考え、自分や家族に必要な備蓄品や避難をする際に持ち出す物を備えておきましょう。

【備蓄品 チェックリスト】	
☒	「救助や支援」が届く、 5日間分をイメージしましょう。
☐	水【飲料水+調理用水】 調理などに使用する分を含めて 1人1日3リットルあれば安心です
☐	食品 米類・麺類・インスタント食品など 缶詰 レトルト食品等 梅干し、海苔、 日持ちする果物等 菓子類・栄養補助食品
☐	生活用品 (ティッシュ、トイレトペーパー、ゴミ袋...など)



【非常用持ち出し袋 チェックリスト】	
自分だけの生活必需品！！	
☐	持病の薬
☐	お薬手帳のコピー
☐	大人用紙パンツ
☐	補聴器・眼鏡
☐	入れ歯・洗浄剤
☐	吸水パット
いつもの生活で使用しているもの！！	
☐	水【飲料水+調理用水】
☐	食品
☐	【米類、乾麺、レトルト食品、インスタント食品、缶詰、経管栄養食、菓子など】
☐	懐中電灯（※手動充電式が便利）
☐	救急用品【絆創膏、包帯、消毒液、常備薬など】
☐	防寒用品【使い捨てカイロ、ブランケットなど】
☐	衛生用品【歯ブラシ、ウェットティッシュ、トイレトペーパーなど】
☐	貴重品【現金（小銭を多めに）、通帳、印鑑、保険証、診察券など】
☐	携帯充電器、予備電池
☐	軍手
☐	ズック靴
感染対策にも有効です！！	
☐	マスク
☐	手指消毒用アルコール
☐	石鹸・ハンドソープ

通信訓練(LINE)

北医師会災害時連絡網 (36)

【これは訓練です】
北区内震度6の地震が発生しました。皆さまの状況をお知らせください

報告日時: 2023/09/01 15:00
氏名: [氏名]
施設名: [施設名] クリニック
地域(学区): 待風
自らの被災状況: 軽(営業可能)
他施設への協力出務: 不可能
特記事項(緊急の依頼など): 稼働している薬局、外科処置が可能な病院の情報希望

14時58分
[氏名] 病院
大宮学区
営業しています。
他施設への協力出来ません。

Noriyo Washizuがメッセージの返信を取り消しました

元町学区
[氏名] 病院です。大きな被害なく診療可能です。他院への協力は困難です

北医師会災害時連絡網 (36)

報告日時: 1500
氏名: [氏名]
施設名: [施設名] 医院
地域(学区): 長野
自らの被災状況: 特異施設に電話で勤務中
他施設への協力出務: 不可能
特記事項(緊急の依頼など):

報告日時: 2023/09/01 15:05
氏名: [氏名]
施設名: [施設名] クリニック
地域(学区): 大宮
自らの被災状況: 無傷、診療可能です。
他施設への協力出務: 困難です。

報告日時: 2023/09/01 15:07
学区: 上野
自らの状況: 無傷で当院で診療中。応援行けません。

施設名: [施設名]
氏名: [氏名]
地域: たいほう学区
被災状況: 施設内利用者は、全員無事。在宅利用者の安全確認を継続中。建物の被害状況点検中
他施設への協力: 困難です。

報告日時: 9月1日 15:10
氏名: [氏名]
施設名: 北区上京区在宅医療介護連携支援センター
地域(学区): 風越
自らの被災状況: 無傷・軽(営業可能)
他施設への協力出務: 不可能
特記事項(緊急の依頼など): 同じビルの住民のなかの負傷者の救護にあっています。負傷者の方々の生命に危険はないレベルです。可能な応援をお願いします。

北医師会災害時連絡網 (36)

報告日時: 令和5年9月1日 15時58分
氏名: [氏名]
施設名: [施設名] 薬局北山店
地域(学区): たいほう学区
被災状況: 停電のため機械を使った調剤はできません。
他施設への協力出務: 困難です。

報告日時: 9月1日 16時
氏名: [氏名]
施設名: 紫竹包括支援センター
地域(学区): 待風
自らの被災状況: 無傷(営業可能)
他施設への協力出務: 相談事項があればまず、ご相談ください。
特記事項(緊急の依頼など): 可能な職員から赤いヘルプの方の安全確認に行きます。員数が悪い方がおられたら相談させていただきます。

報告日時: 14:30
氏名: [氏名]
施設名: [施設名] 病院
地域(学区): 風越
自らの被災状況: なし
他施設への協力出務: 可能
特記事項(緊急の依頼など):

報告日時: 16:45
氏名: [氏名]
施設名: 東区西宮診療所居宅介護支援事業所
地域(学区): 大宮
自らの被災状況: 無傷(営業中)
他施設への協力出務: 可能
特記事項(緊急の依頼など): 特になし

報告日時: 17:36
氏名: [氏名]
施設名: [施設名] 透析クリニック
地域(学区): 大宮
自らの被災状況: なし
他施設への協力出務: 不可能

通信訓練(京あんしんネット)

紫竹園地災害時情報共有

メッセージを入力して下さい

11/24 15:20
社会福祉士(京都市紫竹地域包括支援セン...)

【これは訓練です】
北区内に震度6強の地震が発生しました。皆さまの状況をお知らせください。
(下記テンプレートをコピーしてご利用ください)

報告日時:
氏名:
施設名:
地域(学区):
自らの被災状況: 無傷・軽(営業可能)・中(営業困難)・重(営業不可)
他施設への協力出務: 可能・不可能
特記事項(緊急の依頼など):

紫竹園地災害時情報共有

メッセージを入力して下さい

11/24 15:31
社会福祉士(京都市紫竹地域包括支援セン...)

報告日時: 2023/11/24 15:30
氏名: [氏名]
施設名: 紫竹包括支援センター
地域(学区): 待風学区
自らの被災状況: 無傷・軽(営業可能)
他施設への協力出務: 可能
特記事項(緊急の依頼など): 徒歩にて出勤可能

11/24 15:31
保健師(京都市紫竹地域包括支援センター)

報告日時: 2023/11/24(金)
氏名: [氏名]
施設名: [氏名] 包括支援センター
地域(学区): 待風
自らの被災状況: 無傷
他施設への協力出務: 不可能
特記事項(緊急の依頼など): 現在利用者様宅訪問中。包括に戻り次第すぐに未就学児のお迎えに行くとおられる為、しばらく対応不可になります。

紫竹園地災害時情報共有

メッセージを入力して下さい

11/24 17:44
看護師([氏名])

報告日時: 2023-11-24
氏名: [氏名]
施設名: [氏名] クリニック
地域(学区): 待風学区
自らの被災状況: 無傷・軽(営業可能)
他施設への協力出務: 不可能
特記事項(緊急の依頼など): 今クリニックに戻りました 建物は無事ですので、ご近所の方へのお手伝いはできそうです。

11/24 17:03
介護支援専門員・ケアマネジャー(支援セ...)

報告日時: 2023/11/24(金) 17時05分
氏名: [氏名]
施設名: [氏名]
地域(学区): 待風学区
自らの被災状況: 無傷(営業可能)
他施設への協力出務: 可能
特記事項(緊急の依頼など): 事務所待機しています。応援可能です。

救護班の役割

◎北医師会の各医療機関に対して、

1) アンケート調査の実施

これをもとに

2) 診療可能な医療機関の目印

3) 医療依存度の高い在宅患者の診療

4) 避難所等への医師の派遣

↑防災担当理事の先生もコアメンバーに参加

→北医師会理事会で協議、行政との協議



包括圏域災害対策プロジェクトにおける 連携支援センターの役割

災害対策を通じて

- ・ 行政
- ・ 消防
- ・ 地域資源(医療・介護事業所)
- ・ 地区医師会

を巻き込んだ「地域力」のボトムアップ